

グローバル全生物ゲノム株式ファンド (1年決算型)

運用報告書 (全体版)

第4期 (決算日 2022年12月7日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」は、2022年12月7日に第4期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/株式	
信託期間	2019年1月16日から2028年12月7日までです。	
運用方針	主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要運用対象	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
組入制限	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

<644552>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時~午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR		株 組 入 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 込 分 配	み 期 騰 落 中 率	(参考指数)	期 騰 落 中 率		
(設定日)	円	円	%		%	%	百万円
2019年1月16日	10,000	—	—	100.00	—	—	5,721
1期(2019年12月9日)	11,045	0	10.5	115.04	15.0	98.8	121,171
2期(2020年12月7日)	20,354	0	84.3	140.96	22.5	97.9	95,986
3期(2021年12月7日)	15,813	0	△22.3	162.24	15.1	98.4	57,593
4期(2022年12月7日)	10,349	0	△34.6	166.89	2.9	98.5	32,629

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み合わせますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Indexは、ファクトセット社が開発した世界のバイオ医薬品の開発、研究、製造、ソフトウェア技術等を手掛ける企業の株式で構成された指数です。なお、設定時を100として2022年12月7日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR		株 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率	
(期首)	円	%		%	%
2021年12月7日	15,813	—	162.24	—	98.4
12月末	16,308	3.1	171.37	5.6	98.5
2022年1月末	12,805	△19.0	144.24	△11.1	98.1
2月末	13,106	△17.1	144.13	△11.2	98.6
3月末	13,802	△12.7	158.08	△2.6	98.7
4月末	11,542	△27.0	149.65	△7.8	98.6
5月末	10,636	△32.7	150.21	△7.4	98.6
6月末	11,028	△30.3	156.58	△3.5	98.7
7月末	12,342	△22.0	162.48	0.1	98.0
8月末	11,878	△24.9	158.24	△2.5	98.0
9月末	11,485	△27.4	154.62	△4.7	98.4
10月末	12,170	△23.0	171.80	5.9	98.7
11月末	10,517	△33.5	167.80	3.4	98.5
(期末)					
2022年12月7日	10,349	△34.6	166.89	2.9	98.5

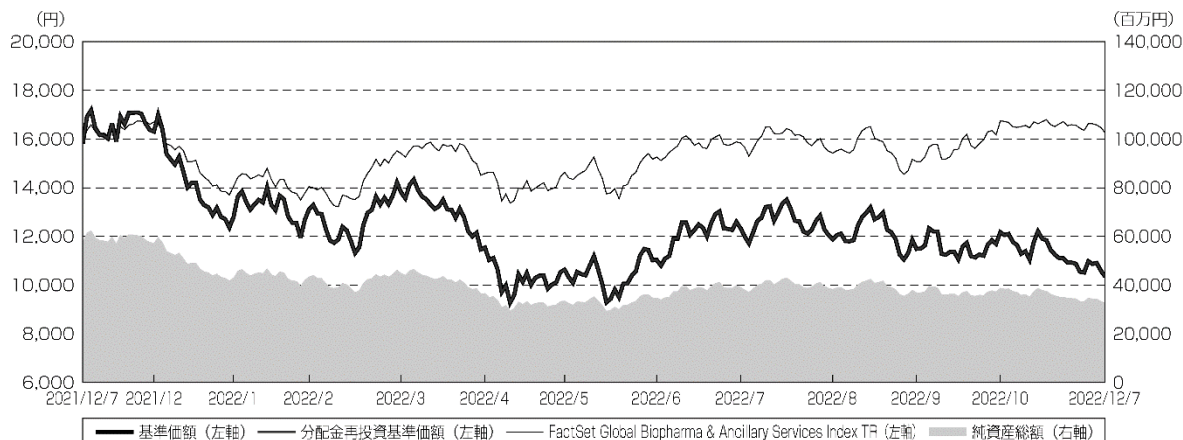
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み合わせますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

（2021年12月8日～2022年12月7日）

期中の基準価額等の推移



期首：15,813円
 期末：10,349円（既払分配金（税込み）：0円）
 騰落率：△34.6%（分配金再投資ベース）

- （注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）分配金再投資基準価額およびFactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRは、期首（2021年12月7日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- （注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- （注）FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRは当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・新型コロナウイルスのオミクロン株などを巡る懸念をこなしつつ、良好なセンチメントのなかで主要株式市場が2021年末まで上値を追ったこと。
- ・米国金利の上昇一服や過度な利上げ見通しの後退などから主要株式市場が反発したこと。
- ・米国インフレのピークアウト期待と米国の利上げペースの減速期待が浮上したことや、中国の新型コロナウイルスの規制緩和などを受けてセンチメントが好転し、株式市場が反発したこと。

- ・米国の積極的な利上げ姿勢や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進んだこと。

<値下がり要因>

- ・金利上昇やインフレ懸念、ロシア・ウクライナ情勢の深刻化などをを受けて世界的にリスクオフが拡がり、主要株式市場が大幅に下落したこと。
- ・インフレ高進と各国の中央銀行の利上げ姿勢などから景気悪化懸念が拡がり、主要株式市場が大幅に下落したこと。
- ・大幅な利上げの長期化観測や景気減速懸念、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場が再び2022年の年初来安値を更新する下落となったこと。

投資環境

（株式市況）

世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて大幅に下落しましたが、円安による押し上げ効果で円ベース・リターンでは若干の上昇となりました。

期間の前半は、一進一退ながらも2022年6月中旬の安値まで下落基調が続きました。期間の初めから2021年末にかけては、新型コロナウイルスのオミクロン株の重症化リスクが低いことやワクチンの有効性が示されて過度の警戒感が薄れ、主要株式市場は年末にかけて史上最高値を更新しました。しかし2022年の年初からは、米国の金融政策の転換への警戒感や、インフレ懸念、金利の急伸、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、対露制裁を受けたエネルギー価格の急騰などの悪材料が重なって世界的にリスクオフが拡がり、主要株式市場は3月上旬まで下げ幅を急速に拡大しました。3月末にかけては、根強いインフレ懸念などをこなしつつ良好な企業決算やロシアとウクライナとの間の停戦交渉期待などから買い戻しが進み、市場は一旦急反発しました。しかし4月からは、米国の消費者物価指数（CPI）の急伸を受けて利上げペースの加速化観測が拡がり、米国の長期金利が急上昇したことや、中国本土のロックダウン（都市封鎖）の長期化懸念などから世界的な景気減速懸念が拡がり、市場はグロース株を中心に大幅に下落しました。その後も、米国のCPIの伸び率加速を受けてインフレ高進への警戒感と大幅な利上げ観測が拡がるなかで、米国連邦準備制度理事会（FRB）が0.75%の利上げを決定し、各国の中央銀行も利上げに追随して景気悪化懸念が拡がり、主要株式市場は6月中旬に年初来安値をつける大幅な下落となりました。

期間の後半は、インフレ率の高止まりと米国の利上げペースをにらんで二番底をつけ、期間末にかけてはインフレ・金融引き締めへのピークアウト期待から上昇基調に転じました。7月からは、米国金利の上昇一服や堅調な企業決算などを下支えにセンチメントが好転して市場は反発しました。インフレ圧力が警戒されつつも、米国の2022年4-6月期実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が前期比マイナス0.9%（年率換算）に縮小してテクニカル・リセッション入り（2四半期連続のマイナス成長）が意識されたことなどから過度な利上げ見通しが薄れ、米国株を中心に8月中旬まで反発基調が続きました。しかしその後、欧州を中心とするインフレ率の上昇や、各国の中央銀行のタカ派（インフレ抑制的）姿勢、大幅な利上げの長期化観測などから市場は再び下落に転じました。中国四川省などのロックダウン入りや中国の景気減速懸念、インフレピークアウト期待の剥落、アメリカドル高の進行、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場は下げ足を速めて2020年11月以来の安値となりました。10月からは、前月までの下げを経た自律反発や、英国の政治・財政政策を巡る不透明感の解消、米国の利上げペース減速観測の浮上などから世界的にリスクセンチメントが改善し、米国市場を中心に反発基調となりました。期間末にかけても、10月の米国のCPIがインフレのピークア

ウトの可能性を示唆しFRBによる利上げペースの減速期待が高まったことや、中国のゼロコロナ政策の緩和、米中対立懸念の後退などを追い風に上昇基調が続きました。しかし期間中の下げを埋めるには至らず、主要株式市場は下落して期間末を迎えました。

（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

期間中の主な投資行動は、以下の通りです。

新規購入の銘柄は、オックスフォード・ナノポア・テクノロジーズや、Compass Pathways、モデルナなどです。オックスフォード・ナノポア・テクノロジーズは、ナノポアベースのシークエンシング（DNA（＝核酸）を構成する塩基の配列を決定すること）技術を主導しており、同技術を提供する唯一の企業です。ARK社では、ナノポア・シークエンシングは、低水準の初期資本コスト、スモール・フォーム・ファクター、高いスケラビリティ、低水準な運営コストといった一連の優れた特性を有していると考えています。Compass Pathwaysは、メンタルヘルス分野におけるエビデンス（科学的根拠）に基づく革新的治療法への患者のアクセスを加速させることに専念しており、治療効果のある幻覚誘発性トリプタミン（有機化合物の一種）が、治療抵抗性うつ病などのメンタルヘルス症状を持つ人々を助けることができる研究に注力しています。向精神薬療法市場は発展の初期段階にあり、ARK社は、同社が有利な立場にあると確信しています。モデルナについては、ARK社では確信を維持しており、新型コロナウイルスワクチンの売上高は減少すると見込まれるものの、財務基盤が非常に強固であることから、RNA（リボ核酸）ベースの治療法を開発する他の企業に比べて優位な立場にあると考えています。

一方、アマゾン・ドット・コムから買収を受けたLife Healthcareや、CVSヘルスによる買収合意を受けてシグニファイ・ヘルスのポジションを解消し、その資金で確信度の高い銘柄を購入したほか、コンピュジェンを売却しました。ARK社では有効性を示すに至らなかったスイスの大手製薬企業の試験データを分析し

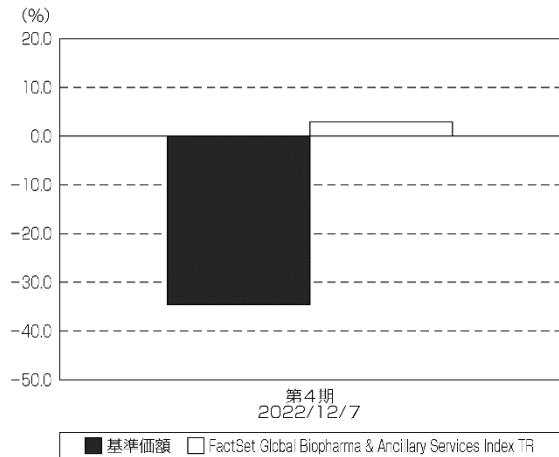
た結果、TIGIT（NK細胞およびT細胞表面に発現する免疫チェックポイント受容体）とDNAM（活性化免疫受容体）軸を標的とするがん治療薬への信頼感が損なわれました。同社はTIGITプログラムの推進を決定しており、同スイス企業との差別化を主張していましたが、臨床プログラムの数が少なく、それらのアップデートもほとんど発表されないこと、また、四半期決算発表の電話会議の開催を見送ったことなどが同社のパイプライン・リスクが示唆されていると考え、ポジションを解消しました。また、セレス・セラピューティクスを売却しました。同社は、これまでのマイクロバイオーム治療において、ドナー由来と非ドナー由来の両方の細菌叢を用いてきました。同社は今後、拡張性の高い手法である非ドナー由来の細菌叢を主に用いるとの見方を示していますが、ARK社では、ラボで培養可能な細菌のみを用いるとマイクロバイオーム治療に期待される効果が減少するケースが多いと分析しています。このような方針転換やこれまでのニュースを受けて、同社のポジションを解消しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを付けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRは当ファンドの参考指数です。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第4期
	2021年12月8日～ 2022年12月7日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,271

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

技術革新の進歩や費用曲線の低下に関連したデフレ圧力が今後3～5年間に於いてゲノム企業・ゲノム関連企業の売上数量増加をもたらし、生産性、収益性を押し上げることになるかと予想しています。より重要なこととして、DNAシーケンシングやゲノム編集などに関連する技術的進歩によって科学的発見のペースが加速することで、病気の症状だけを抑えるという治療ではなく、患者一人ひとりの病気を根治する個別化医療の時代の到来が予見されます。細胞療法の革新と他家由来細胞の活用が組み合わさることで、細胞療法の市場規模がさらに1,500億アメリカドル拡大する可能性があり、がんの遺伝子療法の総市場規模は約20倍に増加し、2,600億アメリカドルを超えると期待されます。そうした治療法のブレークスルー（大躍進）を受けて、シーケンシングに対する需要の拡大が加速すると思われ、シーケンシングは通常の医療の一部になると考えられます。また、これらの技術はヘルスケアの分野を超えて拡大してきています。例えば、2025年までCRISPR技術（ゲノム編集技術の1つ）は農業畜産水産物市場を推定でおよそ1,700億アメリカドル拡大させる可能性があり、世界の人口増加が予想されるなかで食料供給を支えるとみられています。人為的要因による土壌汚染や海洋汚染をゲノム技術の活用によって低減させ、それによって持続可能な作物の栽培や水産物の養殖が可能になるとみられます。当ファンドでは、DNAシーケンシングやゲノム編集、AI技術などの融合を活かし、世界経済においてあらゆる産業に影響を与える可能性がある企業を愛好していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2021年12月8日～2022年12月7日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	222	1.804	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(115)	(0.935)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(101)	(0.825)	運用報告書など各種書類の送付、口内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(5)	(0.044)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	12	0.094	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(12)	(0.094)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	2	0.014	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(2)	(0.014)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	6	0.048	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(4)	(0.033)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(1)	(0.011)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	242	1.960	
期中の平均基準価額は、12,301円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

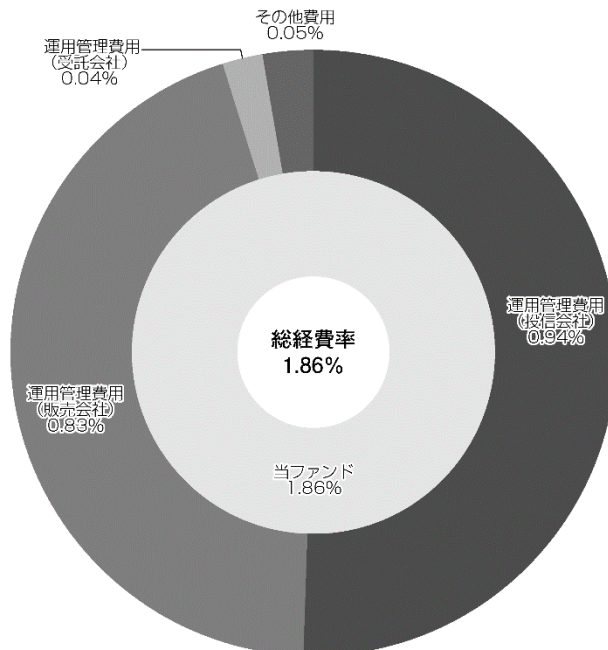
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.86%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2021年12月8日～2022年12月7日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	千口 680,461	千円 902,700	千口 5,685,353	千円 8,283,944

○株式売買比率

(2021年12月8日～2022年12月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	52,371,021千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	57,137,429千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.91	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2021年12月8日～2022年12月7日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年12月8日～2022年12月7日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2021年12月8日～2022年12月7日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2022年12月7日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	33,916,930	28,912,037	32,286,072

(注) 親投資信託の2022年12月7日現在の受益権総口数は、40,960,688千口です。

○投資信託財産の構成

(2022年12月7日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	32,286,072	97.6
コール・ローン等、その他	799,992	2.4
投資信託財産総額	33,086,064	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) グローバル全生物ゲノム株式マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（45,718,863千円）の投資信託財産総額（45,979,565千円）に対する比率は99.4%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=137.31円、1ユーロ=143.60円、1イギリスポンド=166.57円、1スイスフラン=145.59円、1オーストラリアドル=91.93円、1香港ドル=17.65円、1韓国ウォン=0.1037円、1香港・オフショア人民元=19.6398円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2022年12月7日現在）

項目	当期末
	円
(A) 資産	33,086,064,503
コール・ローン等	689,658,293
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド(評価額)	32,286,072,648
未収入金	110,333,562
(B) 負債	456,617,978
未払解約金	112,503,527
未払信託報酬	339,098,284
未払利息	1,607
その他未払費用	5,014,560
(C) 純資産総額(A-B)	32,629,446,525
元本	31,528,201,735
次期繰越損益金	1,101,244,790
(D) 受益権総口数	31,528,201,735口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,349円

- (注) 当ファンドの期首元本額は36,421,445,699円、期中追加設定元本額は4,289,887,530円、期中一部解約元本額は9,183,131,494円です。
 (注) 1口当たり純資産額は1.0349円です。

○損益の状況（2021年12月8日～2022年12月7日）

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	△ 143,072
受取利息	296
支払利息	△ 143,368
(B) 有価証券売買損益	△15,137,701,253
売買益	2,348,722,797
売買損	△17,486,424,050
(C) 信託報酬等	△ 740,479,823
(D) 当期損益金(A+B+C)	△15,878,324,148
(E) 前期繰越損益金	160,080,599
(F) 追加信託差損益金	16,819,488,339
(配当等相当額)	(11,471,929,182)
(売買損益相当額)	(5,347,559,157)
(G) 計(D+E+F)	1,101,244,790
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	1,101,244,790
追加信託差損益金	16,819,488,339
(配当等相当額)	(11,472,434,123)
(売買損益相当額)	(5,347,054,216)
分配準備積立金	14,607,135,463
繰越損益金	△30,325,379,012

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) 親投資信託の信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要した費用のうち、2021年12月8日～2022年12月7日の期間に当ファンドが負担した費用は241,724,293円です。

(注) 分配金の計算過程（2021年12月8日～2022年12月7日）は以下の通りです。

項目	2021年12月8日～2022年12月7日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	11,472,434,123円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	14,607,135,463円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	26,079,569,586円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	8,271円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	0円
-----------------	----

○お知らせ

約款変更について

2021年12月 8 日から2022年12月 7 日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド

運用報告書

第4期（決算日 2022年12月7日）
（2021年12月8日～2022年12月7日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2019年1月16日から原則無期限です。
運用方針	主として、日本を含む世界の金融商品取引所上場株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

ファンド概要

主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、ゲノム技術に関連するビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

株式の銘柄選定にあたっては、各企業の成長性、収益性、財務健全性、流動性などを勘案して行ないます。

株式の組入比率は、高位を維持することを基本とします。

外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。

ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

日興アセットマネジメント

<639028>

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR (参考指数)		株組入比率	純資産額
	期騰落	中率	期騰落	中率		
(設定日)	円	%			%	百万円
2019年1月16日	10,000	—	100.00	—	—	5,635
1期(2019年12月9日)	11,311	13.1	115.04	15.0	99.7	120,079
2期(2020年12月7日)	21,377	89.0	140.96	22.5	99.3	117,320
3期(2021年12月7日)	16,836	△21.2	162.24	15.1	99.3	83,184
4期(2022年12月7日)	11,167	△33.7	166.89	2.9	99.6	45,741

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Indexは、ファクトセット社が開発した世界のバイオ医薬品の開発、研究、製造、ソフトウェア技術等を手掛ける企業の株式で構成された指数です。なお、設定時を100として2022年12月7日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR (参考指数)		株組入比率
	騰落	率	騰落	率	
(期首)	円	%			%
2021年12月7日	16,836	—	162.24	—	99.3
12月末	17,385	3.3	171.37	5.6	99.6
2022年1月末	13,644	△19.0	144.24	△11.1	99.1
2月末	13,991	△16.9	144.13	△11.2	99.6
3月末	14,764	△12.3	158.08	△2.6	99.6
4月末	12,342	△26.7	149.65	△7.8	99.6
5月末	11,381	△32.4	150.21	△7.4	99.5
6月末	11,819	△29.8	156.58	△3.5	99.6
7月末	13,259	△21.2	162.48	0.1	99.6
8月末	12,770	△24.2	158.24	△2.5	99.7
9月末	12,362	△26.6	154.62	△4.7	99.6
10月末	13,130	△22.0	171.80	5.9	99.5
11月末	11,346	△32.6	167.80	3.4	99.6
(期末)					
2022年12月7日	11,167	△33.7	166.89	2.9	99.6

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2021年12月8日～2022年12月7日)

基準価額の推移

期間の初め16,836円の基準価額は、期間末に11,167円となり、騰落率は△33.7%となりました。

基準価額の変動要因

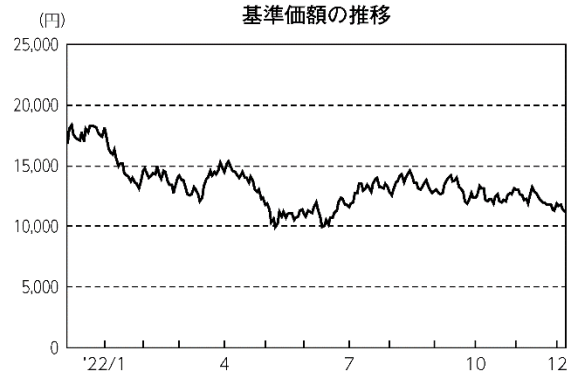
期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・新型コロナウイルスのオミクロン株などを巡る懸念をこなしつつ、良好なセンチメントのなかで主要株式市場が2021年末まで上値を追ったこと。
- ・米国金利の上昇一服や過度な利上げ見通しの後退などから主要株式市場が反発したこと。
- ・米国インフレのピークアウト期待と米国の利上げペースの減速期待が浮上したことや、中国の新型コロナウイルスの規制緩和などを受けてセンチメントが好転し、株式市場が反発したこと。
- ・米国の積極的な利上げ姿勢や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進んだこと。

<値下がり要因>

- ・金利上昇やインフレ懸念、ロシア・ウクライナ情勢の深刻化などをを受けて世界的にリスクオフが拡がり、主要株式市場が大幅に下落したこと。
- ・インフレ高進と各国の中央銀行の利上げ姿勢などから景気悪化懸念が拡がり、主要株式市場が大幅に下落したこと。
- ・大幅な利上げの長期化観測や景気減速懸念、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場が再び2022年の年初来安値を更新する下落となったこと。

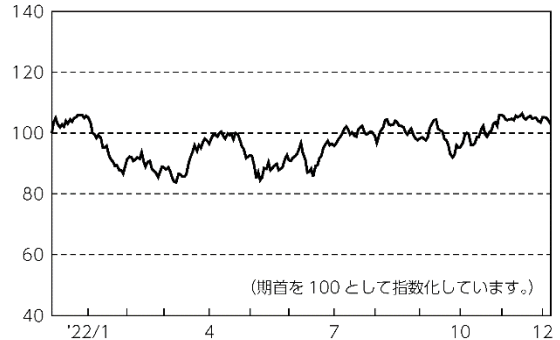


期首	期中高値	期中安値	期末
2021/12/07	2021/12/09	2022/05/12	2022/12/07
16,836 円	18,318 円	9,904 円	11,167 円

基準価額（指数化）の推移



FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR（指数化）の推移



（株式市況）

世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて大幅に下落しましたが、円安による押し上げ効果で円ベース・リターンでは若干の上昇となりました。

期間の前半は、一進一退ながらも2022年6月中旬の安値まで下落基調が続きました。期間の初めから2021年末にかけては、新型コロナウイルスのオミクロン株の重症化リスクが低いことやワクチンの有効性が示されて過度の警戒感が薄れ、主要株式市場は年末にかけて史上最高値を更新しました。しかし2022年の年初からは、米国の金融政策の転換への警戒感や、インフレ懸念、金利の高伸、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、対露制裁を受けたエネルギー価格の急騰などの悪材料が重なって世界的にリスクオフが拡がり、主要株式市場は3月上旬まで下げ幅を急速に拡大しました。3月末にかけては、根強いインフレ懸念などをこなしつつ良好な企業決算やロシアとウクライナとの間の停戦交渉期待などから買い戻しが進み、市場は一旦急反発しました。しかし4月からは、米国の消費者物価指数（CPI）の急伸を受けて利上げペースの加速化観測が拡がり、米国の長期金利が急上昇したことや、中国本土のロックダウン（都市封鎖）の長期化懸念などから世界的な景気減速懸念が拡がり、市場はグロース株を中心に大幅に下落しました。その後も、米国のCPIの伸び率加速を受けてインフレ高進への警戒感と大幅な利上げ観測が拡がるなかで、米国連邦準備制度理事会（FRB）が0.75%の利上げを決定し、各国の中央銀行も利上げに追随して景気悪化懸念が拡がり、主要株式市場は6月中旬に年初来安値をつける大幅な下落となりました。

期間の後半は、インフレ率の高止まりと米国の利上げペースをにらんで二番底をつけ、期間末にかけてはインフレ・金融引き締めへのピークアウト期待から上昇基調に転じました。7月からは、米国金利の上昇一服や堅調な企業決算などを下支えにセンチメントが好転して市場は反発しました。インフレ圧力が警戒されつつも、米国の2022年4～6月期実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が前期比マイナス0.9%（年率換算）に縮小してテクニカル・リセッション入り（2四半期連続のマイナス成長）が意識されたことなどから過度な利上げ見通しが薄れ、米国株を中心に8月中旬まで反発基調が続きました。しかしその後、欧州を中心とするインフレ率の上昇や、各国の中央銀行のタカ派（インフレ抑制的）姿勢、大幅な利上げの長期化観測などから市場は再び下落に転じました。中国四川省などのロックダウン入りや中国の景気減速懸念、インフレピークアウト期待の剥落、アメリカドル高の進行、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場は下げ足を速めて2020年11月以来の安値となりました。10月からは、前月までの下げを経た自律反発や、英国の政治・財政政策を巡る不透明感の解消、米国の利上げペース減速観測の浮上などから世界的にリスクセンチメントが改善し、米国市場を中心に反発基調となりました。期間末にかけても、10月の米国のCPIがインフレのピークアウトの可能性を示唆しFRBによる利上げペースの減速期待が高まったことや、中国のゼロコロナ政策の緩

和、米中对立懸念の後退などを追い風に上昇基調が続きました。しかし期間中の下げを埋めるには至らず、主要株式市場は下落して期間末を迎えました。

(為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、下記の推移となりました。



ポートフォリオ

期間中の主な投資行動は、以下の通りです。

新規購入の銘柄は、オックスフォード・ナノポア・テクノロジーズや、Compass Pathways、モデルナなどで。オックスフォード・ナノポア・テクノロジーズは、ナノポアベースのシークエンシング(DNA(=核酸)を構成する塩基の配列を決定すること)技術を主導しており、同技術を提供する唯一の企業です。ARK社では、ナノポア・シークエンシングは、低水準の初期資本コスト、スモール・フォーム・ファクター、高いスケラビリティ、低水準な運営コストといった一連の優れた特性を有していると考えています。Compass Pathwaysは、メンタルヘルス分野におけるエビデンス(科学的根拠)に基づく革新的治療法への患者のアクセスを加速させることに専念しており、治療効果のある幻覚誘発性トリプタミン(有機化合物の一種)が、治療抵抗性うつ病などのメンタルヘルス症状を持つ人々を助けることができる研究に注力しています。向精神薬療法市場は発展の初期段階にあり、ARK社は、同社が有利な立場にあると確信しています。モデルナについては、ARK社では確信を維持しており、新型コロナウイルスワクチンの売上高は減少すると見込まれるものの、財務基盤が非常に強固であることから、RNA(リボ核酸)ベースの治療法を開発する他の企業に比べて優位な立場にあると考えています。

一方、アマゾン・ドット・コムから買収を受けた1Life Healthcareや、CVSヘルスによる買収合意を受けてシグニファイ・ヘルスのポジションを解消し、その資金で確信度の高い銘柄を購入したほか、コンピュータエンターテインメントを買収しました。ARK社では有効性を示すに至らなかったスイスの大手製薬企業の試験データを分析した結果、TIGIT(NK細胞およびT細胞表面に発現する免疫チェックポイント受容体)とDNAM(活性化免疫受容体)軸を標的とするがん治療薬への信頼感が損なわれました。同社はTIGITプログラムの推進を決定しており、同スイス企業との差別化を主張していましたが、臨床プログラムの数が少なく、それらのアップデートもほとんど発表されないこと、また、四半期決算発表の電話会議の開催を見送ったことなどが同社のパイプライン・リスクが示唆されていると考え、ポジションを解消しました。また、セレス・セラピューティクスを売却しました。同社は、これまでのマイクロバイオーム治療において、ドナー由来と非ド

ナー由来の両方の細菌叢を用いてきました。同社は今後、拡張性の高い手法である非ドナー由来の細菌叢を主に用いるとの見方を示していますが、ARK社では、ラボで培養可能な細菌のみを用いるとマイクロバイオーーム治療に期待される効果が減少するケースが多いと分析しています。このような方針転換やこれまでのニュースを受けて、同社のポジションを解消しました。

○今後の運用方針

技術革新の進歩や費用曲線の低下に関連したデフレ圧力が今後3～5年間に於いてゲノム企業・ゲノム関連企業の売上数量増加をもたらし、生産性、収益性を押し上げることになるかと予想しています。より重要なこととして、DNAシーケンシングやゲノム編集などに関連する技術的進歩によって科学的発見のペースが加速することで、病気の症状だけを抑えるという治療ではなく、患者一人ひとりの病気を根治する個別化医療の時代の到来が予見されます。細胞療法の革新と他家由来細胞の活用が組み合わさることで、細胞療法の市場規模がさらに1,500億アメリカドル拡大する可能性があり、がんの遺伝子療法の総市場規模は約20倍に増加し、2,600億アメリカドルを超えると期待されます。そうした治療法のブレークスルー（大躍進）を受けて、シーケンシングに対する需要の拡大が加速すると思われ、シーケンシングは通常の医療の一部になると考えられます。また、これらの技術はヘルスケアの分野を超えて拡大してきています。例えば、2025年までCRISPR技術（ゲノム編集技術の1つ）は農業畜産水産物市場を推定でおよそ1,700億アメリカドル拡大させる可能性があり、世界の人口増加が予想されるなかで食料供給を支えるとみられています。人為的要因による土壌汚染や海洋汚染をゲノム技術の活用によって低減させ、それによって持続可能な作物の栽培や水産物の養殖が可能になるとみられます。当ファンドでは、DNAシーケンシングやゲノム編集、AI技術などの融合を活かし、世界経済においてあらゆる産業に影響を与える可能性がある企業を選好していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年12月8日～2022年12月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 12 (12)	% 0.095 (0.095)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	2 (2)	0.014 (0.014)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	4 (4)	0.033 (0.033)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の 送金・資産の移転等に要する費用
合 計	18	0.142	
期中の平均基準価額は、13,182円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2021年12月8日～2022年12月7日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上場	千株 —	千円 —	千株 302	千円 993,497
	アメリカ	百株 125,500	千アメリカドル 146,970	百株 133,352	千アメリカドル 215,588
外	イギリス	13,876	千イギリスポンド 6,532	1,127	千イギリスポンド 1,106
	スイス	13 (—)	千スイスフラン 105 (△ 7)	862	千スイスフラン 7,553
国	韓国	—	千韓国ウォン —	202	千韓国ウォン 1,301,365
	中国オフショア	—	千香港・オフショア人民元 —	39,912	千香港・オフショア人民元 112,903

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2021年12月8日～2022年12月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	52,371,021千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	57,137,429千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.91

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2021年12月8日～2022年12月7日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年12月8日～2022年12月7日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2022年12月7日現在)

国内株式

2022年12月7日現在の組入れはございません。

銘柄	株数	期首(前期末)	
		株数	千株
医薬品			
武田薬品工業			302.9
合計			302
			1

外国株式

銘柄	株数	株数	当期末		業種等
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円	
BUTTERFLY NETWORK INC	—	3,969	1,222	167,869	ヘルスケア機器・サービス
CORTEVA INC	2,037	1,674	10,658	1,463,548	素材
GINKGO BLOWORKS HOLDINGS INC	8,654	41,392	7,078	971,901	素材
INVITAE CORP	15,664	13,281	3,386	465,032	ヘルスケア機器・サービス
PALANTIR TECHNOLOGIES INC-A	1,953	—	—	—	ソフトウェア・サービス
PFIZER INC	3,237	686	3,414	468,876	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SIGNIFY HEALTH INC -CLASS A	7,179	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス
TELADOC HEALTH INC	3,481	2,924	7,614	1,045,509	ヘルスケア機器・サービス
UIPATH INC - CLASS A	3,036	3,963	4,930	676,994	ソフトウェア・サービス
VEEVA SYSTEMS INC-CLASS-A	496	467	7,876	1,081,534	ヘルスケア機器・サービス
10X GENOMICS INC-CLASS A	498	1,630	5,709	784,029	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
1LIFE HEALTHCARE INC	7,584	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス
908 DEVICES INC	5,783	5,757	5,095	699,599	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
ACCOLADE INC	4,341	8,097	6,292	863,956	ヘルスケア機器・サービス
ADAPTIVE BIOTECHNOLOGIES	5,623	14,762	11,558	1,587,133	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ALLOGENE THERAPEUTICS INC	2,110	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
AQUABOUNTY TECHNOLOGIES	1,727	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ARCTURUS THERAPEUTICS HOLDIN	2,305	1,918	3,323	456,413	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BEAM THERAPEUTICS INC	2,351	2,943	12,709	1,745,149	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BERKELEY LIGHTS INC	4,610	3,810	986	135,513	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BURNING ROCK BIOTECH LTD-ADR	12,176	7,306	1,760	241,794	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CALYXT INC	13,913	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CAREDX INC	4,057	8,893	11,730	1,610,713	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CERUS CORP	17,711	11,199	4,401	604,341	ヘルスケア機器・サービス
COLLECTIS-ADR	6,482	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CODEXIS INC	7,017	5,677	3,167	434,978	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
COMPUGEN LTD	10,752	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
COMPASS PATHWAYS PLC	—	3,312	3,421	469,812	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CRISPR THERAPEUTICS AG	4,373	3,643	18,503	2,540,774	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等	
	株 数	株 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円		
EDITAS MEDICINE INC	4,508	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
EXACT SCIENCES CORP	3,675	5,125	23,670	3,250,136	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
FATE THERAPEUTICS INC	5,267	4,456	8,529	1,171,145	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
GUARDANT HEALTH INC	—	813	4,025	552,776	ヘルスケア機器・サービス	
INCYTE CORP	1,532	1,019	8,417	1,155,797	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
INTELLIA THERAPEUTICS INC	4,341	3,764	14,674	2,014,916	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
IOVANCE BIOTHERAPEUTICS INC	5,996	3,148	2,389	328,105	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
IONIS PHARMACEUTICALS INC	6,272	3,465	13,178	1,809,576	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
MODERNA INC	—	245	4,261	585,210	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
NANOSTRING TECHNOLOGIES INC	61	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
NVIDIA CORP	—	272	4,359	598,668	半導体・半導体製造装置	
ORGANOVO HOLDINGS INC	1,071	833	126	17,394	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
PACIFIC BIOSCIENCES OF CALIF	9,513	10,894	9,914	1,361,343	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
PERSONALIS INC	10,052	9,239	2,245	308,298	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
PLURISTEM THERAPEUTICS INC	985	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
PRIME MEDICINE INC	—	1,755	3,071	421,720	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
QUANTUM-SI INC	13,536	12,315	2,832	388,950	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
REGENERON PHARMACEUTICALS	300	108	8,094	1,111,435	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
RECURSION PHARMACEUTICALS-A	3,801	4,719	4,294	589,702	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
REPAIR THERAPEUTICS INC	—	1,807	2,940	403,696	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
SCHRODINGER INC	1,913	3,430	5,570	764,874	ヘルスケア機器・サービス	
SERES THERAPEUTICS INC	8,119	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
SOMALOGIC INC	8,331	11,639	3,061	420,315	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
SURFACE ONCOLOGY INC	—	10,822	957	131,527	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
TWIST BIOSCIENCE CORP	2,424	3,055	7,911	1,086,287	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
VERTEX PHARMACEUTICALS INC	1,180	202	6,309	866,311	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
VERACYTE INC	4,421	4,964	13,529	1,857,719	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
VERVE THERAPEUTICS INC	732	3,943	8,308	1,140,893	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
小 計	株 数 ・ 金 額	257,206	249,354	297,518	40,852,279	
	銘柄 数 < 比 率 >	49	45	—	< 89.3% >	
(イギリス)			千イギリスポンド			
GENUS PLC	1,308	1,088	3,271	544,962	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
OXFORD NANOPORE TECHNOLOGIES	—	12,969	3,268	544,416	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
小 計	株 数 ・ 金 額	1,308	14,058	6,540	1,089,378	
	銘柄 数 < 比 率 >	1	2	—	< 2.4% >	
(スイス)			千スイスフラン			
LONZA GROUP AG-REG	56	47	2,265	329,838	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
NOVARTIS AG-REG	1,751	912	7,783	1,133,150	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
小 計	株 数 ・ 金 額	1,808	959	10,048	1,462,989	
	銘柄 数 < 比 率 >	2	2	—	< 3.2% >	
(韓国)			千韓国ウォン			
TOOLGEN INC	876	674	3,545,555	367,674	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
小 計	株 数 ・ 金 額	876	674	3,545,555	367,674	
	銘柄 数 < 比 率 >	1	1	—	< 0.8% >	
(中国オフショア)			千香港・オフショア人民元			
BERRY GENOMICS CO LTD-A	76,473	42,488	54,300	1,066,448	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BGI GENOMICS CO LTD-A	12,454	6,527	36,272	712,383	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
小 計	株 数 ・ 金 額	88,927	49,015	90,572	1,778,832	
	銘柄 数 < 比 率 >	2	2	—	< 3.9% >	
合 計	株 数 ・ 金 額	350,128	314,062	—	45,551,153	
	銘柄 数 < 比 率 >	55	52	—	< 99.6% >	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の < > 内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2022年12月7日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	45,551,153	99.1
コール・ローン等、その他	428,412	0.9
投資信託財産総額	45,979,565	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産（45,718,863千円）の投資信託財産総額（45,979,565千円）に対する比率は99.4%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=137.31円、1ユーロ=143.60円、1イギリスポンド=166.57円、1スイスフラン=145.59円、1オーストラリアドル=91.93円、1香港ドル=17.65円、1韓国ウォン=0.1037円、1香港・オフショア人民元=19.6398円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年12月7日現在)

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	45,979,565,332	
コール・ローン等	310,719,869	
株式(評価額)	45,551,153,543	
未収入金	110,441,323	
未収配当金	7,250,597	
(B) 負債	237,809,363	
未払金	99,681,256	
未払解約金	138,127,732	
未払利息	375	
(C) 純資産総額(A-B)	45,741,755,969	
元本	40,960,688,980	
次期繰越損益金	4,781,066,989	
(D) 受益権総口数	40,960,688,980口	
1万口当たり基準価額(C/D)	11,167円	

(注) 当ファンドの期首元本額は49,409,598,130円、期中追加設定元本額は1,667,193,493円、期中一部解約元本額は10,116,102,643円です。

(注) 2022年12月7日現在の元本の内訳は以下の通りです。

- ・グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型) 28,912,037,833円
- ・グローバル全生物ゲノム株式ファンド(年2回決算型) 5,734,284,675円
- ・Nikkoam FOFs用グローバル全生物ゲノム株式ファンド(適格機関投資家向け) 4,578,180,371円
- ・グローバル・イノベーション株式ファンド(適格機関投資家向け) 1,736,186,101円

(注) 1口当たり純資産額は1.1167円です。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2021年12月8日から2022年12月7日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

○損益の状況 (2021年12月8日～2022年12月7日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	92,766,118	
受取配当金	93,644,063	
受取利息	17	
支払利息	△ 877,962	
(B) 有価証券売買損益	△25,301,368,550	
売買益	20,987,172,761	
売買損	△46,288,541,311	
(C) 保管費用等	△ 20,169,678	
(D) 当期損益金(A+B+C)	△25,228,772,110	
(E) 前期繰越損益金	33,775,270,292	
(F) 追加信託差損益金	556,163,671	
(G) 解約差損益金	△ 4,321,594,864	
(H) 計(D+E+F+G)	4,781,066,989	
次期繰越損益金(H)	4,781,066,989	

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。